

さあ、音楽会！

～音楽会の思い出～

毎年、音楽会が近づくと思い出すことがあります。

わたしは小さい頃から声が大きく、保育園のお遊戯会では、たいてい目立つ役をやらせてもらっていました。声も良かったのか(?)小1の音楽会の時には、『たきび』の♪**あーたろうか あたろうよ**♪の部分で、女の子とデュエットしました。

ところが、小2の頃から声変わりが始まったのか、高い声が出なくなり、1年生の頃のように歌うことができなくなりました。それからだんだんと、歌うことが、音楽が嫌いになってしまったのです……。ということで……

★宮島 哲也物語 【少年編】①

～ああ、音楽会～

時は、哲也 小学校3年生秋。音楽会での思い出だ。

いやだった。とにかく、いやだった。なぜって、幼稚園生じゃあるまいし、3年生にもなって『トンボのめがね』を歌うなんて、はずかしくてはずかしくて……。だけど、あしたは音楽会。「ああ、やだな～」哲也は心のなかで、そうつぶやいていた。

女子もいっしょの5,6人での帰り道。哲也は、あしたの音楽会のことを思うと、元気がでなかった。ところが女子ときたら、

「♪～トンボのめがねは水色めがね 青いお空を飛んだから 飛んだから～♪」なんて、大きな声で歌ったりして。仕方なく、哲也とゴン(親友の愛称)も、やけになって一緒に歌ったのだった。

「♪～トンボのめがねは水色めがね 青いお空を飛んだから 飛んだから～♪」
「ああ～……。」歌いながら哲也は、ため息をついていた。

そして、音楽会。はじめの、校長先生のお話。

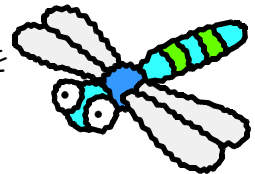
「きのう、あれは3年生くらいだったかなあ。♪～トンボのめがねは水色めがね～♪って、元気に歌いながら帰って行くお友だちがいました。

みんな、一生懸命練習してきたんだらうなあ。きっと、今日の音楽会を、とても楽しみにしているんだなあ、思いました。～」

ドキッ!!とした。「それって、おれたちじゃないかあ。困るよお、そんなふうに言われちゃったら……。」

哲也はステージに立つと、大きな声で『トンボのめがね』を歌ったのだった。

そんな、哲也 小学3年生の音楽会だった。



学校生活の全てが子どもたちの記憶に残るわけではないけれど、ふとした瞬間が、鮮明に記憶に留まることがあります。

そんな一瞬一瞬を、子どもたちと共に創っていきたいと思います。



全校音楽

オープニング曲『MUSIC』について

なかよし班で大切にしたい言葉を考え合う



タンバリンを持つながわちゃん



音楽会、楽しみです！